



来週の投資戦略 (11/8-12)

ファイザーがまた変える

2021年11月7日

小松 徹

注目事項 - 見所

主要企業の7-9月期決算 - 物足りない？

11月10日、10月の米国の消費者物価指数(コア) - 前年比4.3%上昇？

株式市場見通し

先週金曜日にファイザー(米製薬大手)が開発中の新型コロナウイルス向け飲み薬の投与により入院、死亡リスクを89%減らせたとの治験データを発表した。この発表もあって、先週の米国主要株式市場は市場最高値を更新した。同社の株価は同日10.9%上昇した。前日メルク(米製薬大手)が自社開発の飲み薬を英国から承認を受けたばかりだったが、こちらは発症後5日以内の投与で入院、死亡リスクを約50%減らす。驚いたのはここからである。メルクの株価は同日9.9%下落。モデルナ(米バイオ大手)の株価は前日の17.9%下落に続き、同日も16.6%大幅続落。当社は前々日発表の決算で売上高が予想を大きく下回ったこともある。わが国の株式市場はここまでダイナミックに動かないが、今後のヒントになりそうだ。

先週は企業の決算発表と株価推移が特徴的だった。海運3社は全て7-9月期の業績がアナリスト予想を上回り、年間業績予想も大幅上方修正した。日本郵船(9101)と商船三井(9104)は期末配当予想も引き上げた。だが、株価は発表直後から利食い売りで急落した。この背景には大方のアナリストが来期3割減益になるだろうと予想していること、配当も自動的に3割減となるためだ。一方、ザラ場中に決算発表したSUBARU(7270)は直後に株価が3.4%急落したが、引け値では戻った。これは大方のアナリストが来期6割増益を見ているためだ。

来週注目する決算は月曜日のソフトバンクグループ(9984、以下SBG)、金曜日の東京エレクトロン(8035)など。SBGは4-6月期の純利益がアナリスト予想比2倍となったものの、自社株買いを発表しなかったため、株価は下落に歯止めがかからなかった。中国経済の先行き不透明感も反発の重しとなっている。投資家を驚かせるようなことが出てくるだろうか。これに対してエレクトロンの株価は新高値を更新中だ。4-6月期の決算でもアナリスト、投資家を驚かせたが、7-9月期も同様だろうか。アナリストは12百億円程度の営業利益、6割増益と予想している。来期も増益がコンセンサスとなっているので、海運株のようなことは起こらないだろう。

最後に、来週は日本円の反発もあってわが国の株式市場では食い売りが先行するだろうが、週間では底堅く推移するだろう。市場の主役は2年前の一般生活をイメージしたような形になるだろう。その代わり、巣籠関連とみなされた銘柄はすでに下落しているものも多いが、さらに下落しよう。

KPAの投資戦略

| ロング (買い) | ショート (売り) |
|-----------------|---------------|
| 好財務の割安株、今期大幅増益株 | 高PB低位株、高PE新興株 |

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。